

利用者の知識・能力の向上に向けた取り組み 2024年3月

当事業所で取り扱っている様々な製品の中から、ひとつをピックアップしてご紹介します。

<今回ご紹介する利用者様の情報について>

30代の男性で、ADHD・パニック障害の診断を受けています。
現在は車載製品関連の作業や、香典返し用の製品作成に付帯する作業、インテリア関連の資材の計数やそれに付帯する軽作業を担当していただいております。
また製造関係の作業は当事業所が初めてとのことでした。

<今回ピックアップした作業について>

車載関連の製品で、車のカーブミラー部分に使われる製品となっております。
L字型の黒いゴムに専用の特殊なペンと液剤を使用し、長い箇所と短い箇所の計2カ所の決められた範囲に液剤を塗布します。その後液剤がある程度渴いたら、長いテープと短いテープの2種類を、液剤を塗布した範囲に張り付ける作業です。

<今回着目した作業における課題について>

液剤の塗布範囲が決められた部分からはみ出ていたり、逆に塗布が足りていなかったり、短い方のテープを張り付けた際に、端の部分が製品にしっかり接着されていないことが多々ありました。短い方のテープを貼る際にはテープを指で押さえつける動作が工程として組み込まれており、塗布作業とテープ貼り作業ともに作業完了時に作業によるセルフチェック工程が設けられていますが、そこでミスを発見することが出来ていませんでした。

<今回支援した内容について>

担当していただいた製品すべてに対して、職員でチェックを行い、不良が発見された際にはその都度フィードバックを行い、不良の発生を防ぐように努めました。フィードバックした内容として、塗布作業も貼り作業もチェック工程でミスを発見出来ずに作業を進めてしまっている点に注目しました。塗布作業については、塗布する際に重要な箇所を説明し、その部分の塗布漏れがないよう意識するようにし、範囲からはみ出ているものについては、使用している蛍光灯との角度や位置によって見易さが変わる為、最適な位置を調整し、その角度と位置でチェックするようにしました。貼り作業については、毎回貼りがあまくなっている箇所が同じ(短いテープの下部分端)だった為、テープを貼った際の指での押さえ方を端から端へとするようにし、そのあとのチェック工程もしっかりテープが貼られているかテープ上部分を指で押さえ、下部分を浮かせるようにし、端から端がしっかり接着しているかを確認してから次の工程へと進むようにしました。その後、1週間ミスがない状態が続いたら職員によるチェックを外しましょうという目標を設定し、細かいフィードバックを続け、1ヵ月程度での目標クリアとなりました。

<今回の支援を行った後の様子について>

今回チェック作業についての細かなフィードバックを続けた結果、チェック作業の重要性を理解していただき、時々不良を発生させてしまったとしても、すぐに自分で発見し、職員へ報告することが出来ています。

<今回の支援の中で見えてきた課題について>

作業の中でミスをしてしまった際に必要以上に落ち込んでしまう様子が多々ありました。本人の過去の経験等があり、中々ネガティブな感情を払拭することが難しい様子です。作業内容の振り返りや普段から気になっている事などを聞き取る機会を多く作り、上手に対処出来るようになる必要性があると感じ、支援内容として取り組んでいます。

ひとつの作業に対して行われる様々な支援の中からピックアップしてご紹介させていただきました。

管理者兼サービス管理責任者 熊谷 匠

※製造関係の製品を多く取り扱っておりますので、各社様からお預かりしている製品等々に配慮し、作業風景などの写真は控えさせていただきますので、ご了承ください。作業風景等の見学はいつでも対応可能ですので、お気軽にご連絡ください。